

Ruby City MATSUE project について

TETSUYA Tanaka

tanaka-tetsuya@city.matsue.shimane.jp

しまね OSS 協議会 第 1 回オープンソースサロン 2006/10/16(Mon)

概要

人口減少の時代をむかえて、すべての地域が同じように拡大していくことは難しくなりました。自治体間の競争は熾烈さを極めています。企業誘致の補助金に象徴されるように、価格競争による消耗戦の様相を呈しています。

これからは、明確な差別化戦略(非価格戦略)をとった地域のみが持続可能な都市として自立化できると思います。差別化があってこそそのコンセプトであり、総論からではなく具体論からビジョンを考えていかなければならないと考えます。

差別化戦略は地域ブランドの創造にほかなりません。現場主義から地域資源を発掘し、新しい試みと、それらに対する「交流」と「情報発信」を継続していくことで、情報・人・お金の連鎖を引き起こすことができ、それが地域に活力を生むのではないのでしょうか。

こうした中で本市が目にしたのが世界的に有名なプログラミング言語 Ruby でありその開発者である『まつもとゆきひろ』さんです。

Ruby City MATSUE プロジェクトとは、地域再生の活路を見出すため、本市に蓄積する知的財産や地域資源を活かした新たな地域ブランド創生事業です。

1 はじめに

「産業振興の基本は、現場を見ること」「現場を知らずしては、何も始まらない」「会社に行って、現場でがんばっておられる人に会って、現実を知ることが基本」と考え、昨年、産業経済部に配属になったことを契機として企業訪問をさせていただきました。

初めての経験で、最初の頃は、思い切って訪問したものの、会社のことはなにも聞けないまま、行政サービスに対するご意見だけ聞いて帰ることもありました。わたしを始め市町村職員は、経営のプロでもないし、技術の専門家でもありません。企業訪問をさせていただくたびに、私達に何ができるのか自問自答する日々が続きました。

そうした中で気が付いたことは、「いままでやってきた公共事業と違い、主役は事業者の方であり、行政は裏方であること」そして、「主役となりえる人や会社の発掘が必要であること」、「行政は裏方として、そのためのかすがいとならなければならないこと」などです。

こうした活動を通して、若手創業者、企業、島根県、島根大学をはじめとする有志の皆様とともに、産学官が連携してひとつのプロジェクトにチャレンジしていく機運が興りました。

松江市では、今春から松江テルサ別館にオープン・ソース・ソフトウェア(OSS)を軸としたIT交流拠点を整備し、7月に「松江オープンソースラボ」を開設しました。^{*1}

本市には県内のIT企業の約8割が集積し、また、多くのSOHO事業者の方がいます。このプロジェクトにたくさんの皆様が参加され、新たな地域コミュニティが創造されることを期待するものです。

2 コンセプト

1. オープン・ソース・ソフトウェア(OSS)と松江市在住のプログラマーが開発したプログラミング言語 Ruby をテーマとして、「Ruby の街」としての新たな地域ブランドの創生を目指す。
2. 「Ruby」をキーワードに、気軽に立ち寄り、技術・情報を交換したりすることができる場所を提供し、OSSに関する、人材・情報の交流拠点、ビジネスマッチングの拠点としての役割を担うことを目指す。特に資金のない学生、若手創業者、SOHO 事業者支援のモデル事業として、安価な交流の場を提供し、人材育成の土壌を創造する。

^{*1} <http://www.city.matsue.shimane.jp/jumin/sangyou/sangyou/open.html>

3 目的

1. 新たな技術開発や製品にチャレンジする若手創業者、SOHO 事業者を支援。
2. オープン・ソース・ソフトウェア制作の場を提供。
3. 街の「顔」となる交流、共同研究のスペース。
4. 技術情報の集積と発信を行い、新たなビジネスを生み出す拠点。
5. 開発プロジェクトを可能とする産学連携を推進。
6. 人が主役である都市型産業集積により中心市街地活性化の呼び水とする。
7. 人材育成土壌を創造。
8. プロモーションにより地域ブランド化を推進し、Ruby 市場を拡大する。^{*2}

4 話題提供

- これまでの経過
- 自治体間競争の時代
 - － 自治体間競争は熾烈なものに...
 - － 競争戦略の視点から
 - * コスト・リーダーシップ戦略
 - * 差別化戦略
- 情報通信社会になって
 - － 個人がマスメディアになれる時代
 - － IT 社会はグローバルをローカルに変えることが...
- 地域ブランドが街をつくる
 - － PPP による地域ブランドの創造
 - － 地域資源、地域価値から地域再生へ
- 松江オープンソースラボの設置
 - － 地域 (開発) コミュニティの場
 - － 地域ブランド創生拠点
 - － 松江からの情報発信基地
- 都市型産業の振興、ブランド戦略重視
 - － 経済社会圏
 - － 連携と役割分担

5 目指すもの、期待するもの

技術集積 OSS に関する研究先進地を形成、内外に示すことにより、人、技術の集積と交流。
受発注機会の増大 Ruby を始めとする OSS の主導権、アドバンテージを取り県外からの受発注機会の増大。
創業、雇用 技術集積による SOHO 起業、業務発生による雇用への期待。

6 プログラミング言語 Ruby

松江市に本社のある株式会社ネットワーク応用通信研究所 (井上浩代表取締役、<http://www.netlab.jp>) に勤務する、まつもとゆきひろ氏 (松江市在住) が開発したオープン・ソース・ソフトウェア (OSS) である。

誕生以来、メーリングリストなどを活用した技術者たちの交流・開発が世界的規模で続けられ、Web やデータベースのシステム等に活用されている。

世界で 5,000 以上あるプログラミング言語のうち、主に使われる言語は 100 程度で、その中で日本で生まれたものは Ruby だけとのことである。

*雑誌アエラより

世界的研究と呼ばれる Ruby は「Ruby は日本発」と思う人は多いが「Ruby は松江発」と知っている人は数少ない。

^{*2} lightweight language シェアの獲得